



第9回 長崎大学病院 ICLSコース報告書



長崎大学病院は、救急医療教育の一環として、全研修医の日本救急医学会認定『ICLSアシスタントインストラクター』資格取得を目指しております！

平成27年10月31日(土)開催

共催：長崎シミュレーション教育研究会
長崎大学病院 医療教育開発センター
救急医療教育室
協力：日本光電九州株式会社

コースの目的

本コースは、初期研修医の救命医療における知識と技術の向上を目的として開催した。

ICLSとは

日本救急医学会が主催、または「コース認定」をして行う、医療従事者のための蘇生トレーニングコースです。心臓血管系の緊急病態のうち、特に「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得することを目標とした、実技実習を中心としたコースです。受講者は少人数のグループに分かれて実際に即したシミュレーション実習を繰り返し、約1日をかけて蘇生のために必要な技術や蘇生現場でのチーム医療を身につけます。身につける行動の目標は以下の通りです。

- 蘇生を始める必要性を判断でき、行動に移すことができる
- BLS(一次救命処置)に習熟する
- AED(自動体外式除細動器)を安全に操作できる
- 心停止時の4つの心電図波形を診断できる
- 除細動の適応を判断できる
- 電気ショックを安全かつ確実に行なうことができる
- 状況と自分の技能に応じた気道管理法を選択し実施できる
- 気道が確実に確保できているかどうかを判断できる
- 状況に応じて適切な薬剤を適切な方法で投与できる
- 治療可能な心停止の原因を知り、原因検索を行動にできる

実施結果

受講生10名が当コースを修了し、ICLSアシスタントインストラクターの資格を得た。
また、スタッフ(コースディレクター2名、インストラクター4名、アシスタントインストラクター3名)計10名で指導を行い、3ブースを問題なく運営した。

※スタッフ詳細はP.4



◆実施内容◆

開催日時	平成27年10月31日(土) 9:20～17:05		
受講者数	10名		
対象	初期研修医		
場所	長崎大学病院 シミュレーションセンター、リハビリ室		
スケジュール			
		グループA	グループB
9:00～9:20	0:20	受 付	
9:20～9:30	0:10	オリエンテーション	
9:30～10:05	0:35	BLS+AED	
10:05～10:15	0:10	休憩・移動	
10:15～11:15	1:00	気道管理	モニター
10:15～10:25	0:10	休憩・移動	
11:25～12:25	1:00	モニター	気道管理
12:25～13:15	0:50	昼 食	
13:15～13:20	0:05	BLS・ALSデモンストレーション	
13:20～14:30	1:10	チーム蘇生	チーム蘇生
		VF/VT	VF/VT
14:30～14:40	0:10	休 憩	
14:40～15:25	0:45	non VF/VT	non VF/VT
15:25～15:40	0:15	休憩・移動	
15:40～16:40	1:00	メガコード	メガコード
16:40～17:05	0:15	終了式・修了証授与式	

<受講者>

	名前	年次	所属
グループA	---	2	長崎大学病院
	---	1	長崎大学病院
	---	1	長崎大学病院
	---	1	長崎大学病院
	---	1	長崎大学病院

グループB	---	1	長崎大学病院
	---	1	済生会長崎病院
	---	1	長崎大学病院
	---	1	長崎大学病院
	---	1	長崎大学病院

<スタッフ>

役割	名前	所属
コースディレクター	長谷 敦子	救急医療教育室／医療教育開発センター
コースディレクター	山野 修平	救命救急センター
インストラクター	柴田 英貴	消化器内科
インストラクター	武野 正義	循環器内科 / 光晴会病院
インストラクター	立石 洋平	脳神経内科
インストラクター	田下 博	看護部／シミュレーションセンター
アシスタントインストラクター	高木 理博	熱研内科
アシスタントインストラクター	中岡 賢治朗	脳神経内科
アシスタントインストラクター	福田 侑甫	研修医／医療教育開発センター
事務	花井 寿々子	救急医療教育室／医療教育開発センター

<A.気道管理／B.モニター・除細動>

A：立石先生、田下看護師、中岡先生、福田先生

B：柴田先生、武野先生、高木先生

◆アンケート◆ 受講者の声

- このような状況に触れる機会が少ないですが、いざという時に自分がリーダーとなって指示を出すことの難しさを学習できたと思います。迅速なアウトプットにも努力したいと思います。
- 受講するまでは急変がとても怖く感じていましたが、今回受講させて頂き、どう行動すれば良いのか分かり大変勉強になりました。
- ハリーコールや蘇生の現場に積極的に参加することができなかったが、講習を経て、流れが分かったので次から積極的に行動したい。
- 何もできなかった自分から、何かできるようになった自分に変わったと思います。
- 少しは余裕をもって勉強・行動ができる気がしました。もっと勉強をして鑑別・プロトコルを頭の中に入れてたいと思いました。
- 蘇生実施に関して、この半年でも何件かのCPRを行う機会があり、きちんと対応を学びたいと思っていたため、とても有意義に受講できました。もっと目的をはっきりとさせた処置を行えればと思います。
- BLSについて充分だったと再確認できました。CPRしながら診断を行っていく難しさも知りました。
- まだ自信はありませんが、どのような動きをするのか分かったので、復習して今後活かしたいと思います。
- これまでよりも正しくCPRが出来るようになりました。
- 初期対応することに少し自信を持つことができました。また、チーム蘇生の大切さを学びました。
- 二次救命所の流れを完全に理解することができた。実際に現場で使えるように、常にシミュレーションしておこうと思う。
- 前よりは自信をもって行動できると思います。

◆アンケート◆ スタッフの声

1) 受講者の態度・意欲はどうだったか？

- 一部、引き気味な研修医も、後に前向きとなりえた。
- 積極的で良かったと思います。
- 人によっては差がありましたが、最後はよく頑張っていました。

2) 予備知識(予習含む)はどうだったか？

- BLS以外は不十分だった。BLSはよかったです。
- よく勉強していた。
- 薬剤投与のタイミングなど、プロトコルをよく勉強されていました。
- あまり、行えてなかったのではと思います。

3) ディレクター、インストラクター、アシスタント、チューターの指導はどうだったか？

- とてもやりやすかった。2名
- アシスタントも一生懸命でした。今回のアシスタントの皆さんはもっと中心でやってもらってもいいと思います。
- 知識が豊富で系統立てた教え方が上手でさすがだと思いました。
- 協力して行えました。
- ほぼインストラクターとして働いて頂いた。
- 勉強になりました。
- 分かりやすい指導をするのは難しかったですが、回数を重ねるのが大事かと思いました。

4) 今後について、ひとこと

- 今後も可能な限り参加します。
- また参加させて頂きます。
- 次は、インストラクターとして参加したいと思います。

●改善点●

- マギール鉗子の補充。

準備する資機材(3ブース)

資機材名	必要数	備考
ハートシム、操作用PC	3	1台は予備
レサシアン	4	各ブースに2
バックバルブマスク	3	1台は予備
AED	4	複数機種
気道管理トレーナー	2	
モニター付き除細動器	2	二相性 2
気道管理ボックス	3	各ブースに1箱ずつ
注射器10ml		
バイトブロック		
吸引チューブ		
エアウエイ		
経鼻エアウエイ		
聴診器		
ポケットマスク		
喉頭鏡(4.0)		
喉頭鏡柄		
チューブ固定具		
酸素マスク		
酸素カニュラ		
挿管チューブ		
スタイレット		
CO2チェッカー		
テープ		
点滴	2	各ブースに1つずつ
点滴スタンド	2	各ブースに1つずつ
ワゴン	2	
聴診器	2	持ってきてもらう
アルコール綿	多目	
ホワイトボード	2	
ホワイトボードマーカー4色	8	
ストップウォッチ	2	
メトロノーム	1	
延長コード	4	

**長崎大学病院
医療教育開発センター
救急医療教育室**

〒852-8501

長崎市坂本1丁目7番1号

電話 (095) 819-7881

FAX (095) 819-7882

作成:救急医療教育室 事務 花井